

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000038		
法人名	株式会社日本福祉総合企画		
事業所名	有馬温泉郷グループホームくら園		
所在地	兵庫県神戸市北区有馬町字中ノ畑204番		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有馬温泉駅から徒歩5分の所に位置した穏やかな川の流れと緑豊かな山間の自然に囲まれ、広い庭園が広がる開放的なグループホームである。24時間対応の訪問診療体制や薬剤師による服薬管理など利用者様の健康管理体制が整っている。管理者・職員は日々の生活の中で一人ひとりの生活歴を把握して、習字・園芸等、楽しみごとの場面を引き出し、ご利用者一人ひとりの楽しみの時間を生活に繰り込むように工夫し、支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有馬温泉に近い自然に恵まれた環境にあり、庭園には桜・つじなど樹木が植栽され、四季折々の自然に触れることができる。ガラス戸から柔らかな陽射しが差し込む、居心地よく過ごせる共用空間がある。「自分らしく」「ゆったりと流れる時を大切に」という基本理念に基づいて、利用者一人ひとりの意向を確認し尊重する個別支援に努めている。季節ごとのイベントには家族を招き、利用者と一緒に楽しみを共有すると共に、他の家族との交流が持てる機会を設けている。毎朝の健康状態の報告により、主治医・看護師とも連携をとり、健康管理と早期対応を実践し家族の安心を得ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成25年1月31日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、月に一度行うリーダー会議やユニット会議等で話し合い職員間で意識付けしている。 事業所玄関に理念を分かり易く掲示している。	地域の中で暮して行く事を根幹とした理念を掲げ、事業所の玄関に掲示している。日々、各ユニット会議やリーダー会議の中で理念にむけての取り組みを職員間で話し合っている。「ゆったりとした時間を大切に」という理念に基づき、その人らしくゆったりとのんびり過ごせる様に無理やりレク活動に参加させようとはせず、声かけして参加を促す様に職員間で心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属し、班活動へ参加し町内清掃等に参加している。地域小学校の運動会や文化祭への参加、保育園園児が来園し交流を図っている。	地域の自治会に加入しており班長の役割を担っている。3ヶ月に1度、清掃活動を行い、状況によっては道路に凍結防止剤を撒いたり雪の除去活動も行う。利用者が徐々に重度化していく中で地域交流の為に外出が困難になりつつあるが、近くの保育園児が来園して交流を図ったり、地域とのつながりを保つ為、桜の季節には庭を開放している。また、地域住人の介護相談にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は地域の人々に認知症の方の理解や支援の方法をお話する機会を設けられていない。 今後は、そういった機会を設けていきたい。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員・医師・看護師・民生委員が参加し開催する予定だったが、昨年は職員不足及び調整能力不足で出来ず開催していない。次年度は年6回の開催を行うようにする。	今年度は一度も開催出来ていない。 来年度は運営推進会議を行える様に取り組んで行く。	より良いサービスの向上や地域との関わりや支援を得る為にも、2ヶ月に1度の運営推進会議を開催していく事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の施設部会に参加し、他施設や医療関係者との関わりが増している。	必要があればあんしんすこやかセンターに相談するが、日常的に相談する事はない。2～3ヶ月に1度の割合で地域の他施設部会に参加しており、情報交換や虐待防止について等、サービス向上にむけた取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が理解し付添・見守り等行っているので身体拘束をしないケアをしている。玄関の施錠のみ安全性や家族様の要望もあり行っている。 その他、施設内や広い園庭は自由に行き来でき、開放感がある。	施設部会で身体拘束や虐待防止について話し合った内容を各会議で所長からスタッフへ伝えている。また、ユニット会議やリーダー会議で身体拘束について話し合う事はあるが、研修としては行っていない。ユニットの扉やエレベーターの施錠はなく、ユニット間の移動は自由に行なえるが、家族の要望もあり、玄関や庭への出入り口は基本的には施錠している。	身体拘束について、心理的なものを含めた具体的な行為や、拘束がもたらす弊害、身体拘束のないケアへの理解や実践を職員全体に周知していく為、定期的な研修の実施が望まれる。また、施錠をしない暮らしの大切さ、鍵をかけずに過ごせる工夫等を話し合う機会を持つ事を期待する。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や施設部会に参加し学ぶ機会を持っている。施設内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。更に全ての職員が高齢者虐待防止関連法を学べる環境を整える。	所長が施設部会で学んだ虐待防止関連法等を会議の中や日頃の会話の中で職員に伝え、虐待防止についての意識を深めていける様に取り組んでいるが、研修等は行なわれていない。日々職員とのコミュニケーションを密に図り、些細な変化にも気付ける様に努めたり、親睦会を開催するなど、職員のストレスがケアに影響しないように配慮している。家族と外泊や外出する利用者もいる為、身体状況に変化がないか入浴時や更衣時に確認し、自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう取り組んでいる。	定期的に研修を開催し、心理的虐待も含め虐待の種類や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、職員の意識向上に努め虐待の防止に取り組むことが望まれる。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに司法書士による成年後見制度を利用されて方もいる。 今後必要な方があった場合は随時関係者と連携を図り支援していくよう努める。	現在、後見人制度を活用している利用者が2名いる。成年後見制度については日々のコミュニケーションの中で職員に伝えている。利用者には、契約時に成年後見制度の支援を行っている体制がある事を話している。後見人への報告や相談等、常に連携を図り、制度利用への支援を行なっている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては本人様、家族様に十分な説明を行い誠意を持って対応している。	契約に関しては、見学時にも利用者・家族に質疑応答を交えて説明し、十分に納得して頂ける様に努めている。一番心配される金銭面、重度化した場合の対応等については、特に納得される様に心がけて説明している。できるだけ、住み慣れた自宅で契約を行い、利用者の今までの生活について理解できるように努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部苦情相談機関や本社苦情窓口を明示し本人様・家族様に説明している。介護サービスの要望を書面及び対話にて反映させている。	利用者は重度化しており、なかなか自分の思いを伝える事や意思表示が出来なくなってきている為、日々の様子や仕草で判断しサービスの向上に向けて取り組んでいる。家族には面会に来た時などに直接意見や要望を聞き、来られない家族にはプラン作成時などに電話で確認している。年に2回開催している茶話会は、家族の提案を実現したものである。細かい要望や意見などは申し送りノートで職員間の共有を図っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議の場で職員の意見を聞く機会を設けており、提案や改善点を反映させている。	日々のコミュニケーションの中で職員に意見や提案を聞いたり、各会議の中で意見を聞く機会を設けている。特に日々の業務の中で所長と職員が話しがしやすい環境や良い雰囲気作りに心がけている。出された意見や提案は内容に応じて対応し、運営に反映できるように取り組んでいる。利用者との馴染みの関係が崩れない様、基本的に職員間の移動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や努力を給与に反映させるようにしている。処遇改善費交付等もあり職員の給与水準も多少改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設部会や外部研修の情報を提供し職員の参加を勧めている。参加者の報告書や資料を共有できるようにしている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は他施設等との交流は殆んどなく、施設部会等に管理者以外にも職員が積極的に参加し勉強会やネットワークづくりをしたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人様のお話を傾聴し安心を確保する為の関係づくりに努めている。また、他の利用者との間に入り早く溶け込めるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との話し合いの機会を多く設け、要望等を聞く事に努めている。利用して間もない期間は密に連絡をしより良い関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族様が必要とされている支援を、傾聴する機会を設け他のサービスも視野に入れ対応出来るように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様個々の趣味や関心事を把握し、色々な会話の中で共鳴する機会を作っている。日常生活のなかでも共に掃除や洗濯物の片付け等行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と本人様を交え会話できる機会をなるべく設けるように努めている。面会に中々来られないかたには、お電話やお手紙等で連絡を取り合ってもらおう努めている。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や共に外出される事を支援するよう努めている。	利用者の友人・知人の来訪がある時には、湯茶の接待など、できるだけつろいでいただけるように心がけている。今までの馴染みの場所への外出は家族の協力を得て支援しているが、近隣の利用者ばかりではないため、家族の協力がなければ困難な現状である。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の年齢や生活歴を考慮し話題提供やレクリエーションを行う事に努めている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の要望や意向の把握努め、職員間で情報を共有し本人様目線のケアを心掛けている。	利用者との日々の会話の中で、思いや意向をできるだけ把握するように職員に意識付けしている。思いや意向の表出が困難な利用者については、表情・反応・行動から汲み取れるように取り組んでいる。把握した思いや意向については、日々の記録の中に記載し、連携した同一ケアが実施できるように、職員間で申し送りを行っている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に生活歴や馴染みの深い生活環境の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身状態が変化される旨を記録して把握し職員間で共有している。現状の有する力等も同様に把握するよう努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様からの要望を踏まえ、目標に対する実践状況・達成状況等のモニタリングを行い、検討し計画作成担当者が介護計画を作成している。	月に1度、モニタリングを行い、ユニット会議の中で話し合う機会を持っている。基本的には3ヶ月に1度、プランの作成を行っている。利用者の状況に大きな変化があったり、家族の意向に変更があった場合などには、その都度見直しを行い現状に即したプランを作成している。本人や家族の意向を基本とし、居室担当者が意見を記入、往診医にも意見を求めた上で、ユニット会議の中で話し合いプランを作成している。施設に來れない家族にはプラン作成前に手紙で意見を確認している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議で職員間の情報を出し合いそれを基に介護計画の見直しに生かしている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々によってニーズは異なるので出来るだけその時々状況に応じた対応に努めている。 往診Drや看護師による健康管理や専門病院への送迎等を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では、支援出来ていない。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、運営推進会議参加者であり週1回の往診と24時間連絡対応も可能となっている。また、専門医への紹介も行っている。	週に1回、24時間対応の施設かかりつけ内科医が往診、週に2回看護師が来ている。現在、すべての利用者が往診を利用しているが、緊急時対応、連携の利便性等を入居時に説明し、本人や家族が納得した上での受診となっている。他へ通院希望があった場合は基本的には家族に対応して頂く様に説明しているが、事情によっては所長が通院の対応をしている。生活記録の特記事項の中に往診時の詳細を記録しており、職員間の共有を図っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回来園し、日々の状態や情報を共有し利用者様の健康管理を行っている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医以外の医療機関とも施設部会で関係を深め、入院時には相談等が出来る様に関係作りを行っている。	入院時には、個人ファイルを持参し、介護記録情報等を病院側へ提供し、安心した入院生活が送れる様に支援している。入院中は頻回に面会へ行く様にし、洗濯や身の回りの支援が必要であれば対応している。また退院後の生活が円滑に行える様に、退院時にはカンファレンスに参加し看護サマリーの提供を受けている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の対応の説明を行っており、往診Drや看護師の指示を受け対応出来る体制を整えている。	重度化した場合の施設の方針、対応が利用者や家族にとって不安の大きな部分である事から、契約時には時間をかけて十分に説明を行い、同意を得ている。その後、本人や家族の意向、要望や対応のあり方等を話し合いの中で決めて行く。 内容は記録に残し、往診医や看護師との連携を図りながら対応している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、往診Drの指示のもと応急手当や初期対応が出来る様になっている。定期的に看護師指導の訓練を行っている。		

自己 番号	第三者 番号	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、利用者の避難方法・場所を把握している。また、消防職員の協力で防災訓練を行う予定である。地域住民も高齢化してきている為、避難誘導時の協力体制も見直ししなければならない。	今年度は避難訓練は行えていない為、消防署からの防災のDVDを見て災害時の対策等について学んだ。災害時の避難経路は決めている。万々に備えて飲料は備蓄しているが、備蓄の内容については検討の必要性を感じている。災害時には近隣の住人を含めて誘導、協力体制を整えていきたいと考えている。来年度は防災訓練を行っていく予定である。	昼夜を通じてさまざまな災害の種類や時間を想定した避難訓練の実施が望まれる。職員と利用者、地域住民の協力も含めた支援体制を築いていく事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様の話に傾聴し協調するように努め人格を尊重している。 居室内への入室際はお声掛けし注意している。	決定権はすべて利用者にあるという事を念頭におき、日々、利用者の人格尊重に努めている。排泄・入浴など、ケアの場面では、羞恥心への配慮として可能な限り同性介助が出来る様に取り組んではいるが、夜間帯や状況等により困難な時もある。個人のファイルは鍵付きの棚の保管して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣する際の衣服の決定や、どのように日中を過ごされるか極力決定していただくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場なので最低限の時間的ルールはあるが、個々のペースに沿った対応を行っている。また、食事の時間帯はゆっくりと摂っていただいている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に衣服を決定していただく、また家族様にも協力していただき定期的に衣服の入替や追加等していただいている。 また、訪問美容を利用しカットやパーマをされている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理に関しては委託業者が行っているが、 テーブルセッティングや下膳等協力していただいている。委託業者とも連携をとり利用者様の要望を伝え可能な限り実践している。	一日三食の食事とおやつは外部委託業者から、真空パックの状態が届くため、施設側で温めたり盛り付けて提供している。残食量や摂取状況、利用者の意見などを確認し、検食の職員が業者へ状況を伝える。献立は委託業者の管理栄養士が作成しているが、利用者の意見や残食の多いメニューに関しては見直しを検討し、利用者の嗜好ができるだけ反映できるように努めている。クリスマス行事などのイベント時は、職員がおやつを作るようにしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分量はチェック表に記録している。また、体調不良で極端に摂取量が少ない日が続く場合はDrに連絡し点滴施行を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を月2回利用し、口腔状態の把握に努め歯科医師の指導のもと個々の口腔ケアを行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄パターン表に記録している。 声掛けによるトイレ誘導し極力自尿や排便をして自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を使用して個々の排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を基本とし、失禁を減らす事が出来る様に取り組んでいる。トイレへの誘導も、「行きましょう」ではなく「行きますか？」といった声かけを心がけている。スムーズな排泄が出来る様に水分摂取や食事量、尿量も記録し、毎日ファックスする報告を看護師がチェックし、主治医の指示により早期の対応を行なえる体制にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂取してもらい、利用者様達と共に運動を行ったりしている。 しかし、便秘が続く場合にはDrの指示に従い便秘薬を服用していただいている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	集団生活の場の為、現状では個々の希望やタイミングに合わせての入浴は困難な日もある。 ご自分で入浴が可能な方にはプライバシーを配慮しながら安全を確保し支援している。	週2日の午後の時間で対応している。現在は特に入浴の回数や時間等についての要望はないが、可能な限り同性介助の対応を心がけている。安全に恐怖心なく入浴できる様に、利用者によっては二人介助で対応している。一人一人個別の入浴で対応し、気持ちよく入浴して頂ける様に毎回湯を入れ替えている。プライバシーも考慮し1人で入れる利用者には外から様子を伺い、声かけするなどして急変時にも対応出来る体制をとっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活パターンを個々に記録しており、休息の時間帯や入眠のタイミングを把握し支援している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族様の承諾を得て、薬剤師による居宅管理指導を行っている。、随時、薬剤師から説明を受けており、Drとも連携し症状の変化状況を把握するよう努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を踏まえ習字や園芸、ピアノ演奏や歌など楽しみの時間を生活の中に取り入れるように工夫し支援している。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのショッピングモールやスーパーに職員同行で定期的に行っている。 土地柄観光地なので滝や紅葉を見に行くなどしている。 家族様と共に食事や散歩に行けるように支援している。	利用者の重度化に伴い日常的な外出支援は難しくなっている。天気の良い日には、近隣を散歩したり、庭で過ごせる様に努めているが、頻度的には十分ではないと認識している。今後は家族の協力も得ながら、外出や外食支援が行える様な体制作りを検討中である。	利用者の状況も考慮しながら、利用者の気分転換・ストレス発散・五感刺激の機会として日常的な外出の機会が確保できる取り組みが望まれる。また、家族の協力も得ながら、普段行けないような場所への外出支援を期待する。
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	職員と共に買物に行きご自分で支払いしていただいている。その際、レシートの保管等のフォローを行っている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置してるので自由に電話できるようにしている。手紙の受け取りや投函の協力をさせていただいている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に応じた飾りをしている。 装飾品・作品等が置かれ広い庭から陽射しがあり穏やかな空間となっている。	利用者が過ごすリビング空間には広い庭があり、大きな窓からは明るい陽射しが入り暖かな雰囲気となっている。職員が自宅から花を持ってきたり、庭に咲いている花を切ってリビングに飾ったりして明るい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大小のソファやテーブルを色々な場所に用意しているので、その時々で好きな場所で過ごせるように工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様個々の思い出の家具や装飾をし、また家族様に依頼し自分で作られた作品等を飾っている。	家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの深い家具や装飾品を居室に置き、落ち着いて生活できる空間作りに努めている。利用者によっては、家具や装飾品が危険になりうる場合もあるため、その様な時には家族と相談しながら利用者が安全に心地よく過ごせる様に代用の物を検討しながら支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士が起床時等に声を掛け合い互いに協力しあう事で、刺激を与えている。それを職員が安全性を考えサポートしている。		